

【ねらい】

10を単位として、何十でわる計算の仕方を考え説明することができる。

課題

あめが60個あります。このあめを1人に20個ずつ分けると、何人に分けられますか。
(式) $60 \div 20$

わる数が大きくなったね。どうしよう。

$60 \div 20$ の計算の仕方を考えましょう。



既習の想起項

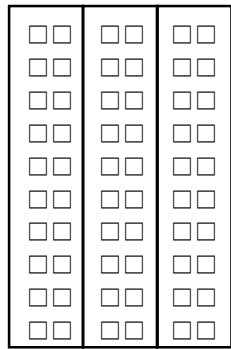
① 算数ブロックを使って実際に20個ずつとっていきながら考える。

② 20個ずつが何人分で60個になるかをかけ算で考える。

③ 既習のわり算を使って考える。

自力解決

① あめを20個ずつ分ける。



(式)
 $60 - 20 = 40$
 $40 - 20 = 20$
 $20 - 20 = 0$

答え 3人に配れる

② かけ算を使って考える。

(式) $20 \times \square = 60$
だから
□人配るとすると

$20 \times \square$ が60になるには
□が3の時だから

答え 3人に配れる

指導上の留意点

●①の具体的な操作を丁寧に行わせ、②と③の考え方のよさに気付かせていく。

●10個ずつを1箱とみるようにしていくことで既習のわり算の仕方で計算できることに着目させていく。

1 自分の考えをブロックや図などを使って発表する。

集団思考



① 60個から20個ずつひいていくと、3回ひけるから3人に分けることができました。



② 何人に配れるか分からないので□にし、20に何をかけると60になるかを考えました。



③ 10個を1箱と考えると、60個は6箱で、20個は2箱だから $6 \div 2$ で計算しました。

●除数についても、被除数と同じように10個を1箱とみて考えていることに着目させていく。

2 それぞれの考えのよさについて話し合う。



①のひき算は、簡単そうだけれども、数が大きくなったらとても大変そうだよ。



②は、かけ算を使っているから分かりやすそう。でも①と同じように数が大きくなると大変だよ。



③は10個を1箱と見るととても簡単なわり算にすることができるね。10を1と見ることが大切なんだね。

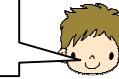
3 60÷20の計算の仕方をまとめる。

集
団
思
考



何十÷何十のわり算は、10を1箱で考えるとどんな計算と同じになるだろう。

10が1箱ということは、10のまとまりで考えるということで、1けた÷1けたの計算にすることができる。



60÷20は、10のまとまりで考えると「6÷2」と同じだね。

この問題文は、10個を1箱にすると「6箱のあめがあります。このあめを1人に2箱ずつ分けると何人に分けることができますか。」という問題に変えることもできるね。



●ひき算は一見簡単そうだが、数が大きくなった際のことを考えさせていく。

●10を基にして考えると60÷20が6÷2で表せることに気付かせていく。

●具体物を使いながら、60個のあめを10個ずつの箱が6箱あることに気付かせていくことで既習のわり算に結びつけることができることを確認する。

ま
と
め

○ 適用問題に取り組む。(教科書や単元問題ライブラリー)

○ 本時のまとめをする。

・10を基にして考えると、60÷20の商は、6÷2の計算で求めることができる。

●何十÷何十の計算は、10を基にして考えると一桁÷一桁で計算することをおさえる。